

## 疫学（臨床）研究実施についてのお知らせ

大阪市立大学大学院医学研究科  
消化器内科学

### 【研究課題名】

## 食道 ESD における穿孔のリスク因子の検討

### 【研究期間】

倫理委員会承認後 ～ 2017 年 12 月 31 日

### 【研究の意義・目的】

表在型食道癌に対する内視鏡下粘膜下層剥離術（Endoscopic submucosal dissection; ESD）は有効な治療法であり広く普及しています。しかし、食道は管腔が狭く、食道壁には漿膜がなく薄いため、胃や大腸と比べると穿孔を来しやすく、穿孔を来した際には縦隔気腫、気胸、縦隔炎などを生じる可能性があります。このため、今回穿孔の危険因子を明らかにすることを目的として研究を行います。これにより、そのような症例ではより慎重に対応し、エキスパートが治療を担当するなどの対策が可能となり、穿孔を予防することが可能となるものと考えます。穿孔の予防、回避により、患者、術者、担当医の苦痛、負担の軽減、入院期間の短縮、医療費の削減などに寄与するものと考えます。

### 【研究の方法】

当院で食道 ESD を行った症例を対象とし、穿孔した症例としていない症例の背景を比較することにより、穿孔のリスク因子について統計学的に検討を行います。

### 【研究組織】

研究代表者

永見康明

### 【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者 永見康明

住所 545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3

電話 06-6645-2316、17

FAX 06-6645-3813

E-mail gi-endoscopy@med.osaka-cu.ac.jp